

釣りを中心とする様々な体験が大学生に与える影響とアウトドアスポーツツーリズムによる地域活性化の可能性：高知県須崎市に関する研究

学生氏名 竹内 蒼

指導教員 教員氏名 前田 和範

研究背景

本研究の出発点は、著者自身がアウトドアスポーツに親しみを持ち、地域活性化に関心を抱いてきたことから、釣りがもつ独自の魅力や、地域に対して持つ可能性に関心を抱いたことである。特に、大学生という若い世代が、釣りや体験活動を通して地域とどのように関わり、その中でどのように意識を変化させていくのかに強い興味をもった。

研究目的

本研究では、高知県須崎市を事例に、須崎市でのフィールドワークが、単なるレジャーとして消費されるだけでなく、参加者の地域への関心や環境問題への意識を高め、さらには地域活性化につながる可能性があるかを明らかにすることを目的とする。

研究方法

研究対象は、高知工科大学経済・マネジメント学群の4年生10人を対象とし、予備調査とフィールドワークの事前・事後・1ヶ月後にアンケート調査、一部にインタビュー調査を実施した。フィールドワークの内容は、須崎市役所と須崎市地域おこし協力隊の協力を得て、特別に用意されたものである。

分析結果

釣りのイメージの変化は、「個人」から「チーム」、「つまらない」から「楽しい」、「暗い」から「明るい」、須崎市のイメージの変化は、「暗い」から「明るい」、「狭い」から「広い」への変化で体験後に上昇し、体験1ヶ月後も維持された。環境問題のイメージはすべて、体験後に上昇するが1ヶ月後には体験前かそれ以下に下がる変化をした。

考察・結論

分析結果を考察したところ、以下の知見を導き出した。1つ目は、意識変化に関する発見である。釣り体験は単なるレジャー体験に留まらず、感情や環境意識を効果的に向上させることを明らかにした。2つ目は、意識変化の持続性に関して、変化の持続性には差が存在した。感情的・感覚的なイメージは定着しやすい一方、「活動の価値」といったイメージの変化は、長期的な定着が難しいという課題が示された。3つ目は、地域活性化の可能性についてである。体験後のアンケート結果でフィールドワークは、地域内の観光資源への関心を広げる有効な入り口として機能することが確認された。この結果から須崎市が提供する体験プログラムの持続性と地域活性化を実現するためには、成果物の充実、継続的な情報提供、利便性の改善が挙げられる。